

杉原千畝年譜 (改訂)

- 1900(明 33) 1. 1 岐阜県加茂郡八百津町にて誕生
- 1906(明 39) 4. 2 岐阜県恵那郡中津尋常小学校に入学
- 1907(明 40) 4. 1 三重県桑名郡桑名尋常小学校へ転校 後に名古屋市古渡尋常小学校
(現・平和小学校)へ転校
- 1912(明 45) 3. 23 古渡尋常小学校を卒業
4. 1 愛知県立第五中学校(現・瑞陵高校)へ入学
- 1917(大 6) 3. 26 第五中学校卒業
6. ー 京城医学専門学校を受験するが白紙答案を提出
- 1918(大 7) 3. ー 京城より上京
4. ー 早稲田大学高等師範部(現・教育学部)英語科予科に入学
- 1919(大 8) 3. 31 早稲田大学予科終了
4. ー 早稲田大学本科英語科に入学
7. 16 外務省官費留学生採用試験に合格
10. ー 外務省ロシア語留学生としてハルビンに渡る
11. 1 早稲田大学中退届受理される
- 1920(大 9) 3. ー 月刊誌『受験と学生』4月号に留学生採用試験談を寄稿
11. 16 朝鮮京城府竜山(現・ソウル市内)歩兵 79 連隊 9 中隊に 1 年志願兵として入隊
- 1922(大 11) 3. 31 1 年志願兵満期除隊
4. 15 ハルビンに戻る
9. 1 日露協会学校(後のハルピン学院)特修科に通う
- 1923(大 12) 3. 31 日露協会学校特修科を終了 満州里に語学留学続行
- 1924(大 13) 2. 8 外務省書記生に採用
2. 15 クラウディア・アポロノフと結婚
6. ー 満州里勤務を任命
12. 15 ハルビン勤務を任命
- 1927(昭 2) 11. ー 杉原千畝編纂『ソヴェト連邦国民経済大観』外務省より刊行
- 1929(昭 4) 4. ー 日露協会学校講師
- 全学年のロシア語文法・時事読解・ソ連邦政治経済事情講座を担当
- 1930(昭 5) 9. ー 日露協会学校ロシア語講座講師
- 1932(昭 7) 3. ー 満州国建国により満州国政府外交部の組織事務に従事
6. 11 満州国外交部北満特派員公署事務官に任命
- 1933(昭 8) 6. 2 第 2 回「北満鉄道譲渡交渉委員会」正式会議で満州国側書記官に任命
- 1934(昭 9) 8. 25 満州国外交部理事官 外交部政務局ロシア科長兼計画科長に任命
- 1935(昭 10) 3. 23 北満鉄道譲渡の日満ソ三国協定調印に参画
7. 1 満州国外交部を依願退官 日本外務省に復職
7. 23 外務省情報部第 1 課に任命
12. 30 クラウディア・アポロノフと協議離婚成立
- 1936(昭 11) 4. 7 菊池幸子を入籍
5. 21 日ソ漁業交渉の通訳官としてカムチャッカのペトロバブロフスクに着任
9. 2 長男誕生

	12. 26	在モスクワ日本大使館二等通訳官に任命
1937(昭 12)	3. 9	ソ連 杉原の入国拒否を正式通告
	8. 12	フィンランドのヘルシンキ公使館二等通訳官として任命
	9. 15	ヘルシンキ着
1938(昭 13)	10. 29	二男誕生
1939(昭 14)	7. 20	リトアニアの首都カウナス (当時) 日本領事館副領事(領事代理)に任命
	8. 25	
	～28	ヘルシンキ発 ベルリン経由にてカウナス着
1940(昭 15)	5. 29	三男誕生
	7. 18	ユダヤ難民が日本領事館前に押しかける
	7. 29	ユダヤ難民に大量のビザ発給開始
	8. 2	外務省より領事館退去命令
	8. 28	領事館閉鎖後 メトロポールホテルに移動
	9. 5	カウナス駅より国際列車にてベルリンに向かう
	9. 12	ベルリン発 プラハ総領事館着任
1941(昭 16)	2. 4	プラハ総領事館の杉原へ 松岡外相からカウナスでのビザ発給について問い合わせ
	2. 28	ドイツ領東プロイセン・ケーニヒスベルク 日本総領事館勤務に任命
	3. 6	ケーニヒスベルク 日本総領事館に着任
	11. 27	ルーマニアのブカレスト日本公使館一等通訳官に任命
	12. 21	ブカレスト着
1943(昭 18)	11. 16	ブカレスト日本公使館三等書記官に任命
1944(昭 19)	—・—	ブカレストからポイアナブラショフへ避難
1945(昭 20)	8. 17	ブカレスト郊外ソ連軍配下のゲンチャ捕虜収容所に連行される
1946(昭 21)	11. 16	帰国に向けてブカレスト中央駅出発 オデッサ到着 第 186 中継収容所に収容される
	12. 10	オデッサ出発
1947(昭 22)	3. —	シベリア鉄道経由でナホトカ着 収容所に収容される
	4. —	興安丸にてウラジオストクを出港 大連に寄港 恵山丸にて大連から博多に向かう
	4. 7	博多港より上陸 沼津市に一時期滞在の後 藤沢市鵜沼に居住
	6. 7	外務省を退官
	6. 13	外務省から退職通知書届く
	11. 12	三男死去
1949(昭 24)	—・—	参議院事務局勤務
1950(昭 25)	6. 1	東京 PX(現・松屋デパート)日本総支配人
1951(昭 26)	5. 1	米国貿易商会 A・ポンビ銀座の支配人
1952(昭 27)	10. 1	三輝貿易(株)取締役
1954(昭 29)	4. 1	ニコライ学院にて教鞭を執る
1956(昭 31)	4. 1	科学技術庁に勤務
1957(昭 32)	4. 1	NHK 国際局勤務
1960(昭 35)	5. —	川上貿易(株)に入社
	9. —	川上貿易(株)モスクワ事務所長
1968(昭 43)	7. —	カウナスの元ユダヤ難民ジェホシュア・ニシュリと 28 年ぶりに再会

鎌倉に移住

1969(昭44)	9.ー	ゾラフ・バルハフティク(元ユダヤ難民)イスラエル宗教大臣より顕彰メダルを受与
	10. 1	蝶理(株)に入社
	10. 25	蝶理(株)モスクワ事務所長
1971(昭46)	7.ー	国際交易(株)モスクワ事務所長
1978(昭53)	3. 31	国際交易(株)退職
1985(昭60)	1. 18	イスラエルより「諸国民の中の正義の人賞」(ヤド.・バシエム賞)受賞
	11.ー	エルサレムの丘にて杉原千畝記念植樹祭と顕彰碑除幕式
1986(昭61)	7. 31	鎌倉にて永眠(享年86歳)